

KOKUSAI
OKINAWA

No.66

国際おきなわ

第39回 外国人による日本語弁論大会

第39回 外国人による日本語弁論大会



第39回外国人による日本語弁論大会が、さる2月5日にパレット市民劇場で行われ、最優秀賞となる沖縄県知事賞にはネパール出身のブダキ・アユスさんが選ばれました。また、大会にはフィリピンやインドネシア出身の10名の外国人が登壇しました。

現在、沖縄リハビリテーション福祉学院に在籍するブダキさんは、「幸せになるなら介護福祉士になろう」をテーマに、日本の介護制度の素晴らしさを発信しました。日本の介護制度について学び始めた頃は、家族による介護が主流であるネパールにおいて、高齢者が介護施設に入所する日本での介護制度の違いに戸惑いながらも、自分の家族のように接する介護スタッフの思いに触れることで次第に、日本の介護制度そのものが「家族を大切にす国」だからこそという思いに気づいたというエピソードを語りました。将来、母国においても介護に携わることができる人材の育成にも取り組んでいきたいとの意欲を力強く述べました。

沖縄県国際交流・人材育成財団理事長賞（優秀賞）を受賞したのは、国際言語文化センター附属日本語学校で職員として働くアチャルヤ・ラム・プラサドさん。ネパールでの厳しい生活を経験してきたプラサドさんは、将来沖縄でお笑い芸人として活躍し、沖縄とネパールの架け橋として、コロナで元気がないウチナーンチュやネパール人にたくさん笑顔届けたいという夢を述べ、とっておきのギャグで弁論を締めくくりました。

その他、沖縄テレビ賞（優良賞）を、沖縄国際大学に所属するニ・ワヤン・スリウィンダリ・アンバルワティさんが、審査員特別賞を尚学院公務員法律専門学校所属のアレ・アニタさんがそれぞれ受賞しました。

公益財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

Okinawa International Exchange & Human Resources Development Foundation (OIHF)

〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐4-2-16 TEL: 098-942-9215 FAX: 098-942-9220

HP: <https://kokusai.oihf.or.jp>

FB: <https://www.facebook.com/oihf60>



沖縄県知事賞 受賞作品

演題 幸せになるなら介護福祉士になろう

沖縄リハビリテーション福祉学院 Budhathoky Ayush

ブダキ アユス



私の国ネパールでは、高校を卒業後、留学する割合は70%ぐらいです。私も高校を卒業した後、どの国へ留学しようかと考えていました。その時に先輩から貴重なアドバイスをもらい、日本への留学を決めました。先輩の話から日本には未来があり、チャレンジできる国だと思ったからです。

来日後、私は2年間、日本語学校で日本語を学びました。しかし、日本語を習得して何をしたいのか、私にははっきりとした目標がありませんでした。卒業の日が近づき周りが進路を決めていく中で、私はやりたいことも見つからず焦っていました。

そんな時、私は日本語を学びながら介護のアルバイトをしたことを思い出しました。介護に興味を持ったきっかけは、祖父でした。私は小さい頃から祖父のことが大好きで、一緒に過ごしていました。しかし祖父が寝たきりになってしまい、家族みんなで祖父の世話をすることになってしまいました。私も祖父のために何かできることは嬉しかったのですが、日本に留学することになって、直接祖父の世話ができなくなりました。そこで、日本で介護のアルバイトをすることにしました。

私の国には「介護」という仕事がありません。介護が必要なら、家族が家庭内で世話をするからです。そのため、日本では「介護」が職業であることを初めて知った時は、ショックでした。介護のアルバイトをしながらも「どうして日本人は自分の家族を他人に見てもらおうのか」「今まで自分のために尽くしてきた親に恩返しをしないのか」など、不思議に思っていました。

そして、介護のことをもっと知りたいと思い、介護の専門学校へ進学することにしました。学校に入り、介護についてしっかり学ぶ中で、それまで抱いていた介護に対するイメージがすっかり変わりました。介護は相手の世話をしたり、相手ができないことの全てをやってあげる仕事ではありません。その人が自分でできることが増えるように、そして以前と同じような生活ができるように自立を手助けさせてもらう仕事なのです。そのため、介護の内容は一人一人異なります。相手が育ってきた環境やこれまでの生活を知り、現在の状態を理解し、それぞれに合った方法で対応させてもらわなければなりません。それには専門的な知識や技術が必要です。

また、介護に関する知識や技術を学べば学ぶほど、介護に対する気持ちや考え方が変わってきました。介護のことを知らなかった当初は、「日本人はどうして自分の親を他人に見てもらおうのか」など理解できないことが多かったのですが、それは自分家族を大切に思っていないからではなく、介護の知識や技術が十分ではないため、プロの力が必要であると考えたからだということがわかりました。

むしろ、自分の家族を大切に思っているからこそだったのです。そのため「介護」は職業として必要だし、介護のプロとして介護福祉士が欠かせないということがわかりました。

このように、職業として「介護」があり、そのプロとして介護福祉士がいる日本は、家族を大切にする国だということが今では理解できます。

私は現在、専門学校で学んでいますが、将来は相手のことを思いやることのできる介護福祉士になりたいです。そして、いつか日本で習得した知識や技術を国に伝え、私の国でも職業としての「介護」とそのプロである介護福祉士を通して、家族や介護を必要としている大切な方に十分な対応ができるようになってほしいです。留学のきっかけは、日本には未来があり、チャレンジできる国だと思ったことでした。私は日本での経験を通して、それまで考えたことがなかった将来について考えることができました。介護福祉士になりネパールで夢を必ず実現させたいです。

沖縄県国際交流・人材育成財団理事長賞 受賞作品

演題 沖縄で目指す夢

国際言語文化センター附属日本語学校 Acharya Ram Prasad

アチャルヤ ラム プラサド



ハイサイ！ナマステ！沖縄で夢を追いかけているアチャルヤ・ラム・プラサドと申します。どうぞ宜しくお願い致します。

まずは私の母国ネパールの紹介をしたいと思います。ネパールは中国とインドの間にある長細（ながほそ）い内陸国です。内陸国なので海はありませんが、山がたくさんあります。

特に有名な山は、世界で一番高い山エベレストです。

そして、皆様仏教を開いたブッダを知っていますか？日本人には、ブッダはインド出身と思われていますが、実はネパールのルンビニという場所で生まれました。なので、ルンビニには世界各地（せいかいかくち）のお寺があります。ネパールは、たくさんの文化や自然に囲まれて、食べ物も美味しい所です。ぜひ行ってみてください！

しかし、ネパールは日本みたいに、経済的に発展している国ではありません。アジアの中でも特に貧しい国の

一つです。そして、ご飯を食べられない、学校へ行けない、ホームレスの子供達もたくさんいます。そんな苦しい生活の中で医者になりたい、パイロットになりたいと言う子供達もいますが、それはとても厳(きび)しい夢です。

とても厳(きび)しい夢ですが、ネパールの若者はその夢を叶えるために世界の色々な国で頑張っています。

そして、私にも夢があります。私の夢は大好きなネパールと、大好きな沖縄の「架け橋となるお笑い芸人になること」です。

ネパールにもお笑い芸人がいて、小さい時によくテレビで見えていました。私は、苦しい生活の中に笑顔を届ける「お笑い芸人」という職業(しょくぎょう)に密(ひそ)かに憧(あこが)れていました。

そんな私が、沖縄に来てびっくりした事があります。皆さんは、沖縄はお笑い芸人が沢山(たくさん)いる事を知っていますか？沖縄は、日本で東京・大阪について3番目に芸人が多いと言われています。

沖縄にはひーぷー・こきざみインディアン・じゅん選手など、有名芸人がいますが、私も実は彼らと同じ事務所でお笑い芸人をしています。学生時代、同じバイト先に芸人が居て、沖縄にもお笑い事務所がある事を知り、チャレンジしてみようと思いました。

ただ、アチャルヤ・ラム・プラサドという名前は長くて覚えてもらえないので、「らむちゃん」という芸名で活動(かつどう)しています。いつか、「あんまりそわそわしないで♪あなたはいつでもキョロキョロ♪よそ見をするのはやめてよ♪私がだれより一番♪好きよ好きよ好きよ」の曲(きょく)で有名なアニメ「うるさいやつら」のらむちゃんと同じくらい有名になりたいです。

今まで、芸人として様々な活動をさせて頂きました。テレビ出演、ラジオ出演、一日警察署長、CM出演などです。特に、CMではネパール語を使えて嬉しかったです。「ファミリーマートマカンガーロ」スタッフ募集中！セブンイレブンさんもよろしくお願いします！

そして私は去年(きょねん)の1月から、しまくとぅばで有名(ゆうめい)な芸人「じゅん選手」と「めーばーカリー」というコンビを組んでいます。コンビ名の由来(ゆらい)は、めーばーは、じゅん選手の前歯(まへば)がありえなくらい前に出ているから。また、カリーは私の母国ネパールで有名なカレーと、しまくとぅばで福を招く(ふくをまねく)という意味の「カリー」をかけて「めーばーカリー」です。

今、相方(あいかた)のじゅん選手から沢山(たくさん)のしまくとぅばを教えてもらってます。だけど、お笑い芸人なので真逆(まぎゃく)の言葉を教えたりするので大変です。この前、気になってる沖縄の女性(おんな)になんてしまくとぅばを使ったら良いかをじゅん選手に聞いたら「やなかーぎー」と教えてもらいました。アドバイスを受けて私は、気になっている人に「やなかーぎー」とラインを送りました。二度と返信(へんしん)が来る事はなかったです。可愛くないって意味(いみ)ですよね。あとから、知って慌(あわ)てて「ちゅらかーぎー」と送りましたが、焼石(やけいし)に水(みづ)でした。

今現在、沖縄とネパールの文化(ぶんか)の違い(ちがひ)をネタにして、コロナで元気の無いウチナンチュやネパール人、困(こ)っている人々に笑顔を届けてます。いつかM-1グランプリでそのネタを披露(ひろう)して、大好きな沖縄とネパールを全国にアピールしたいです。

最後に、じゅん選手から習(まな)ったしまくとぅばで締めたいと思います。

イッペーニフェーデービル！ボディービル、くちびる！ご清聴(せいちょう)ありがとうございました。

沖縄テレビ賞 受賞作品



演題 幸せはどこにありますか？

沖縄国際大学 Ni Wayan Sriwindari Ambarwati

ニ ワヤン スリウィンダリ アンバルワティ



私は2018年に日本に来ました。それは、新しい環境での生活が経験(けいけん)でき、さまざまな言語(ごんご)も習(まな)べて完璧(かんぺい)だと思ったからです。それで、どんなことが起きるのか毎日わくわくしていました。日本に来てから日本語だけではなく、たくさんの方が学(まな)べるようになりました。例えば、人に対する態度(たいど)、人間関係(にんげんかんけい)、言葉遣(ことばづかい)などですが、その中でも私が最も大切に思(おも)っていることは、責任(せきにん)を持つことと頑張(がんば)る意欲(いよく)です。

私は、アルバイト先(せん)や日本語学校(がっこう)でさまざまな人々(ひと)に出会(であ)いました。その中には、私の両親(りやうしん)と同じくらいの年齢(ねんねい)の方もいれば、それ以上の年齢(ねんねい)の方(かた)、そして、私(わたし)と同じ留学生(れいしゅうせい)などです。それらの人々(ひと)に囲(こも)まれている私は大変(たいへん)ポジティブ(positive)な刺激(しき)を受けるようになりました。皆(みな)はそれぞれの立場(たてま)で、一生懸命(いっしょうけんめい)、勉強(べんきょう)したり仕事(しごと)したりしています。若い人(わかいらい)から年配(ねんぱい)の人(ひと)まで年齢(ねんねい)に関係(かんけい)なく勉強(べんきょう)や仕事(しごと)にがんばっている姿(すがた)を目(め)にして、がんばる意欲(いよく)を見習(まな)いたいと思いました。

しかし、私(わたし)たちは何(なに)のためにがんばっているのでしょうか。皆さんは、何(なに)のために勉強(べんきょう)や仕事(しごと)をしていますか。自分(おれ)のため？ 相手(あいて)のため？ 家族(かぞ)のため？ 生活(せいかつ)のためですか。それとも、ほしいものを買う(か)うため？ お年寄(おとし)りになった時(とき)の投資(とうし)のため？ 寄付(きふ)をするためですか。よく考えたら理由(りゆう)はたくさんあると思います。

ある人は「人は生まれたからには幸せになる義務(ぎむ)がある。」と言(い)っていました。相手のため(ため)に役に立つ(たす)ことが幸せ(しあわせ)であるかもしれませんし、ほしいものが買(か)えるのが幸せ(しあわせ)かもしれません。



人に愛されること、人に役に立つこと、人に褒められること、人に必要とされることで、幸せになれるそうです。そして、あと一つ追加させてもらえれば、人に分け与えることだと思います。人に分け与えるというのはものごとだけではなく、時間もです。私は日本に来てから聞く態度が変わってきました。なぜなら、私が分け与えることができるものは時間しかなかったからです。相手の話を聞くことしかできない私でも相手を幸せにすることができます。どのような手段や方法をとっても、結局幸せになるためのゴールは同じです。

皆さんは、どんな時に幸せを感じますか。インドネシア語に「幸せは自分自身が選ぶもの、作るもの」という言葉があります。最初から泳げる人は幸せで、全く泳げない人は幸せではないということはありません。なぜならば、幸せは比較するものではないからです。人は自分の心さえ幸せであれば、全てにおいての大変さなどは感じられなくなると思います。

私は、何事にも、とりあえず「幸せ」と頭に入れておくようになりました。何事もやりながら楽しく幸せな環境にいることが大切です。それは沖縄に来てから感じられるようになったと思います。沖縄の人は私が日本語学校にいたときから、大学生になった今まで、どんな時でも、優しく接してくれます。悪い人もいるかもしれませんが、先ほど私が言ったようなこと、とりあえず「幸せ」と頭に入れておけば、悪いことをされていたとしても気付かないでしょう。

学生は課題やレポートを作成するとき、社長は従業員との関係をつくるとき、友達と一緒に遊ぶとき、彼氏もしくは彼女とそばにいるとき、親子と時間を過ごすときなど、「幸せ」と思えば必ず幸せになります。幸せは思えばどこにでもあります。

皆さんはどう思いますか。私は、「今の瞬間が幸せだ」とポジティブに考えるだけで、気分が嬉しくなります。そして、「今日は一日、頑張ろう」と思えるようになり、その結果、一日がスムーズに過ごせます。自分が幸せだと、相手をポジティブにすることができます。また、相手が幸せだと、私も幸せになれます。幸せは自分自身から作るものだからです。

私の道はまだまだ続きます。これから卒業後、就職して大変なことが起きるかもしれませんが、そこから一歩、一歩、幸せをたくさん作って感じていきたいと思います。

今は、大学生として生きていきたいです。大学生らしく20代前半をたくさん学んだり、遊んだりしたいと思います。日本、いいえ、沖縄、これからもよろしくです。



審査官特別賞 受賞作品

演題 保険に加入しましょう

尚学院公務員法律専門学校 Ale Anita

アレ アニタ



私は今、アルバイトをしながら専門学校に通っています。国では生活に関すること全てを両親に頼っていたので、家族と離れて生活している今、わからないことも多くて不安でいっぱいです。

初めてアルバイトをした時、私は学費と生活費を計算して、収入と支出のバランスを考えていました。しかし、実際は国民年金や健康保険など考えてもいなかった支払いが多くびっくりしました。当然、今の私の収入では負担が大きく、払うことが難しいです。それでもできる限り納めるように頑張りました。

しかし、2年ぐらいたったある日、滞納していた保険料がどんどん増えていることに気付きました。私は、払えない時は次払えばいいと軽く考えていた為、こんなに滞納していることに気付かなかったのです。留学生にとって、こんなに高い金額は払えないと不安になり、先輩に相談しました。すると先輩は、市役所へ行って事情を説明したほうがいいとアドバイスしてくれたので、私はすぐ市役所へ相談に行きました。

市役所の方から、どうしてもっと早く来なかったのかと問われましたが、私にしてみると、日本の保険や税金の仕組みなんて詳しく知らないし、市役所へ相談に行くという手段さえ知らなかったのですから、どうすることもできないのです。きっと私のような留学生は多いと思います。

ちなみに、私の国ネパールにも健康保険はあります。しかし、加入している人はわずかな富裕層の人達だけです。ネパールではほとんどの人が貧しく、保険料が払えません。その上、十分な教育が受けられる人も少ない為、保険の仕組みや保険そのものを知らない人もいます。

ところで、ある日、私はアルバイトで手を痛み、病院へ行くことになりました。すぐに良くなりましたが、正直、体のことより支払いのことを気にしていました。すると会計の時、受付の方が留学生でも保険に入っているのですと3割負担でいいと説明してくれました。

国では体調が悪くても支払いのことを気にして病院へ行けない人がたくさんいるのに、日本では安心して生活ができると思うと、少し複雑な気持ちになりました。私が安全な国で安心して生活している一方、国では病院に行けない人や不安な毎日を過ごしている家族がいると考えると、生活の格差を感じたからです。

このように、日本はとても安全で、私達外国人でも安心して暮らせる国です。病院や役所ではわかりやすく対応してくれるし、看板は多言語で案内してくれます。

最近はコロナ禍で生活が大変ですが、生活保障もあって助かりました。実はこのような費用には税金が使われていることを知りました。

私は保険や税金の仕組みを理解するようになって、これまで損をした気分で納めていたお金も、安心して生活するためだと考えて納めるようになりました。

そしていつか、ネパールの社会制度も日本のように整ったらいいなと思いました。富裕層や知識のある人だけが加入できる保険ではなく、貧しくても入れる保険の仕組みを作りたいです。また、私のように制度を知らずに困っている人が増えないよう、情報を発信していきたいです。

最後に一言。私はこれからも保険料や税金を納めます。

🌸 大会の様子 🌸



日本語弁論大会 YouTube 配信情報!

Stream on OIHF Official YouTube

配信期間 2022年2月24日~

Delivery period: From Thursday February 24th 2022

※閲覧にはインターネット環境が必要です。

インターネット接続やパソコン機器に関する問い合わせには対応出来かねます。

*Internet environment is required for browsing.

*Please note that we are not able to respond to inquiries regarding Internet connection environment or computer equipment.



ストリーミング配信
QRコード
Scan the QR code

ホームページ内、新着情報をチェック!
Please visit our website and check "Update"

kokusai.oihf.or.jp

検索

YouTube URL

<https://www.youtube.com/channel/UC8w81VJWLxIk7Un7b6mMf84A>



English and Cross-culture Webinar



去る2月19日(土)に“The Fourth English and Cross-culture Webinar”を実施しました。少人数による実施ではありましたが、海洋環境問題やサンゴ礁の保護、幼児教育や英語力の向上など、幅広く難しいテーマについて英語で話し合ったり、また、ディスカッションを深めるべく、参加者が事前にスライドを作成し「子どもの権利」について議論を深める様子がとても印象的でした。今年度最後の実施となりましたが、英語によるコミュニケーション力を高めるイベントとして、新年度も引き続き実施していきたいと思っております。



【その他OIHF法人賛助会員様】 沖縄ハワイ協会 沖縄ツアーリスト 沖縄県商工会連合会
パシフィックホテル沖縄 沖縄市国際交流協会

災害時危機管理ウェビナー

六甲アイランド甲南病院 循環器内科部長 水谷 和郎氏



本ウェビナーは、去る1月15日(土)に実施され、阪神淡路大震災発災時に救急搬送される傷病者のトリアージを行うなど、災害医療に精通する 六甲アイランド甲南病院 循環器内科部長 水谷 和郎氏を講師として招聘し、「災害医療の現場から-阪神淡路大震災の記憶-(仮題)」をテーマに、当時の対応を振り返りながら、そこから見えてきた課題や今後の展望等についてご講演いただきました。

参加者からは、「実際の被災時の医療現場の姿を見ることで、震災をリアルに感じる事ができた。トリアージの場面というのは見ていてとてもつらく、実際に現場で冷静に行う姿には畏敬の念を感じた。」「この先またいつ地震などの災害に遭遇するか分からないが、講演の内容を忘れず自分なりの災害対策を考えなおそうと感じた。」、また「病院は災害が発生した場合、ケガを負った方々の最前線になるのしょうから最新の情報伝達-発信の仕組みや機器を備えて欲しい。」などの感想が寄せられました。

震災当時のことを思い出され涙ぐまれながらも、ご講演されていた水谷先生の姿に参加者の多くの方も涙されていたのが、とても印象的でした。



OIHFが行う外国人相談の通訳者(リーガル・ライフサポーター)を8名認定しました！



去る12月11日(土)と12日(日)に「リーガル・ライフサポーター認定テスト」を実施し、24名が受験しました。テストでは、離婚や相続、在留資格に関する知識を確認する筆記テストと逐次通訳テストを実施し、合格した8名(英語3名・中国語5名)を認定しました。

合格者は今後、OIHFが実施する「生活・法律相談」の通訳サポーターとして、弁護士や労基署などの専門的な場面において、OIHFの通訳者を担います。OIHFでは、引き続き関連する講座やテストを実施し、在住外国人の生活環境の向上に向けて、高度人材の育成に努めて参りたいと思います。



長濱さま ご寄付

令和3年12月24日に長濱守毅様より国際交流課と奨学課にそれぞれ20万円のご寄付をいただき、国際交流課長と奨学課長の手に寄付金が託されました。

長濱様は平成25年3月にOIHF国際交流課長を退職されるまで、長年にわたり本県の国際交流事業の発展に尽力されました。

この度は昨年度に引き続き国際交流事業のさらなる興隆と、そして奨学事業の隆盛に活用してほしいというご厚情からご寄付をいただきました。

長濱様のご厚情に心より敬意を表するとともに、長濱様の益々のご健勝とご多幸をOIHF職員一同祈念しております。



■ 事業の目的 ■

外国人を社会の一員として受け入れる社会包括を念頭に、外国人が生活等に必要な日本語能力を身につけられるよう、**地方公共団体が関係機関等と連携して日本語教育環境を強化するための総合的な体制をつくり、「生活者としての外国人」の日本語学習機会の確保を図る。**

■ 事業開始の経緯 ■ 要点

- ① 日本に在留する外国人は、令和3年6月には280万人超え。30年前と比べて3倍に迫る。
- ② 平成30年「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」が政府により示される。
- ③ 令和元年「日本語教育の推進に関する法律」が施行。
- ④ 同年、文化庁で「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」が開始。
- ⑤ **沖縄県の2014年～2019年の5年間の在留外国人の増加率は89%、全国1位。**
- ⑥ 本県でも、**外国人の日本語学習ニーズの把握と、日本語教育の体制づくりが必須。**

■ 実施内容 ■



令和3年 9月	・補助金交付決定 ・Zoom ビジネス日本語、対面教室、Zoom 個別クラスの実施（通年）
10月	・第1回総合調整会議（有識者会議）
12月	・日本語学習サポーター育成ウェビナー
令和4年 1月	・地域日本語教育推進ウェビナー ・第2回総合調整会議
2月	・第39回外国人による日本語弁論大会 ・第3回総合調整会議

Zoom個別クラス 登録者22名／マッチング279回（令和4年1月末現在）

国籍別 **アメリカ5名、中国4名、フィリピン3名、ベトナム2名、韓国・台湾・イエメン・イギリス・ドイツ・ブラジル・ポルトガル・マレーシア各1名**
在留資格別 **日本人の配偶者等9名、永住者・家族滞在各3名、経営管理、特定技能及びその他各2名、定住者1名**

対面教室 登録者14名 金曜日 19:00～21:00

国籍別 **中国・アメリカ各4名、ブラジル3名、台湾・ネパール・フランス各1名**
在留資格別 **日本人の配偶者等7名、定住者3名、家族滞在2名、永住者及び経営・管理各1名**
～受講者からリクエストがあった学習内容の一例～
・ JLPT level 1～2 ・ JLPT level 3 ・ JLPT level 4～5 ・ 漢字 ・ 文法
・ Basic日常会話 ・ 尊敬語と謙譲語 ・ 自動詞と他動詞の違い
・ 漢字音読みと訓読みの見分け方 ・ ニュースを読む ・ 仕事で使う敬語etc.

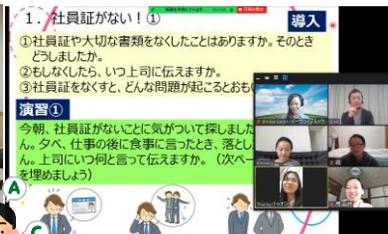
ビジネス日本語 登録者11名 火曜日 10:00～12:00

国籍別 **中国4名、台湾2名、韓国・香港・オーストラリア・スリランカ・ベトナム各1名**
在留資格別 **永住3名、留学2名、その他6名（技人国etc.）**



■ 次年度の計画 ■ 要点

- ① 外国人住民を対象とした日本語学習ニーズのヒアリング調査の実施。
- ② 調査結果をもとに、地域として、どのような日本語教育を提供すべきかを分析。
- ③ 沖縄県との協議のもと、日本語教育推進計画を策定・公表。
- ④ 国が目指す、各自治体が主体となって実施する地域日本語教育の重要性を意識啓発。
- ⑤ OIHFは引き続き、モデル教室の拡充、支援者育成ウェビナーの実施。



対面教室の様子

Zoomビジネス日本語クラスの様子

総合調整会議の様子

災害時に役立つやさしい日本語ウェビナー

3月9日(水)に「災害時に役立つやさしい日本語講座(急性期編)」を実施します。本広報誌発行後の実施となるため、参加者の様子をお伝えすることはできませんが、県内外から34名が参加する予定です。ウェビナーでは県内の在住外国人の様子や県内での大規模災害発生の可能性を概観する他、災害急性期に発信される情報を実際に多言語化する手順を確認します。

またまとめとして、災害急性期から時間が経過し、生活再建期へと移行すればするほど、個々人の状況にカスタマイズした情報発信が求められる提供されるべき情報が複雑化するため、「やさしい日本語化」が難化していくことを確認します。

手順4：必要な情報を付け加えたり言い換える②

例
避難所に避難してください。
→ 避難所(近くの公民館や学校の体育館)に逃げて下さい。
避難所では、食べ物や飲み物がもらえます。
避難所は、誰でも使えます。お金はいりません。
在留資格が切れていても大丈夫です。

- 情報を付加することで、避難や命を守る行動につなげる
- 重要な災害(防災)用語は、言い換えた上で繰り返し使用する

手順2：難しい単語や表現を取り除く、言い換える⑦

- 二重否定の表現を避けて、肯定文にする
- 二重否定のニュアンスを伝えるため、情報を付加する

例
通れないことはない
→通ることができます。(でもあぶないです)
使えないわけではない
→使うことができます。(でも難しいです)

イベント情報~詳しくはHP<https://kokusai.oihf.or.jp/>まで

災害時外国人支援サポーター養成講座

本講座は、参加者の「防災・減災」に対する意識を高め、島嶼県沖縄の地域防災力の向上を目指すとともに、災害時に外国人に寄り添うことができる人材を育成することを目的に実施します。

- 募集人数：40名程度
- 募集期間：2022年3月6日(日)～4月17日(日)

医療通訳者養成講座

県内在住外国人の医療機関への受診をスムーズに支援する「医療通訳者」を養成するための講座を実施します。全講座を受講し認定テストに合格された方を、OIHFの「医療通訳者」と認定し、必要に応じて医療機関や自治体に紹介します。

- 養成対象言語：英語・中国語
- 募集期間：2022年3月27日(日)～5月8日(日)

災害時外国人支援サポーター養成講座 参加者募集

目的
「防災・減災」に関する知識を深め、島嶼県沖縄の地域防災力の向上を目指し、被災する外国人をサポートしながら自治体や地域住民との橋渡しを担える人材を育成します。

実施場所
*COVID-19の感染状況によって実施場所を全てZOOMに変更する場合があります

- 第1回・第5回：沖縄産業支援センター
- 第2回～第4回：ZOOM

講座修了認定
講座(全5回)受講者を「災害時外国人支援サポーター」と認定し受講者証とIDを付与します(2022年3月現在、本県と琉球において168名が登録しています)

参加要件
島嶼県沖縄の地域防災力の向上や外国人支援に興味がある方

募集人数 40名程度

募集期間等
■2022年3月6日(日)～4月17日(日)
■講座の詳細等はHPで!

応募先着順とし、定員に達し次第締切!

お問い合わせ：(公財)沖縄県国際交流・人材育成財団(OIHF) 国際交流課
TEL: 098-942-9215 HP: <https://kokusai.oihf.or.jp/> FB: <https://www.facebook.com/oihf60>

医療通訳者養成講座 受講者募集

目的
県内の在住外国人が安心して地元の医療機関を受診できるよう、医療通訳者として活動できる人材を育成します。

定員
各言語20名程度
募集締切後、申請料の内容に基づき受講者を選抜します

募集対象
次の要件を満たす方
(1) 全講座(5回)の受講と認定テストを受験できる方
(2) 受講希望言語でビジネスレベルのコミュニケーション力を持つ方

養成対象言語
英語・中国語

募集期間等
2022年3月27日(日)～5月8日(日)
詳細は、HP(<https://kokusai.oihf.or.jp/>)で確認することができます。

実施場所 沖縄産業支援センター

お問い合わせ：(公財)沖縄県国際交流・人材育成財団 国際交流課
TEL: 098-942-9215 FAX: 098-942-9220
HP: <https://kokusai.oihf.or.jp/> FB: <https://www.facebook.com/oihf60>

【新たな事業実施のお知らせ】外国人のための無料職業紹介サービス

沖縄労働局と福岡出入国在留管理局那覇支局との3者間で締結した「在住外国人の労働・生活環境向上に向けたパートナーシップ協定」に基づき、OIHFが開設した新たなプラットフォーム「多文化共生推進アライアンス」の賛同企業と外国人求職者とをマッチングする「無料職業紹介サービス」を新年度からスタートします。

これまでに、株式会社琉球銀行や、沖縄科学技術大学院大学、ヒルトン沖縄瀬底リゾートや株式会社琉球新報社等、多数の企業にメンバーとしてご加入いただきました。OIHFでは今後専用ウェブサイトを立ち上げ、さらなる賛同企業を募るとともに、求職者のニーズを満たすことで在住外国人にとって住みやすく働きやすい環境づくりに努めて参ります。

多文化共生推進アライアンスメンバー

Hilton OKINAWA CHATAN RESORT

OIST

OIHF

Hilton OKINAWA SESOKO RESORT

DOUBLE TREE by Hilton OKINAWA CHATAN RESORT

DOUBLE TREE by Hilton NAHA

琉球新報社

琉球銀行